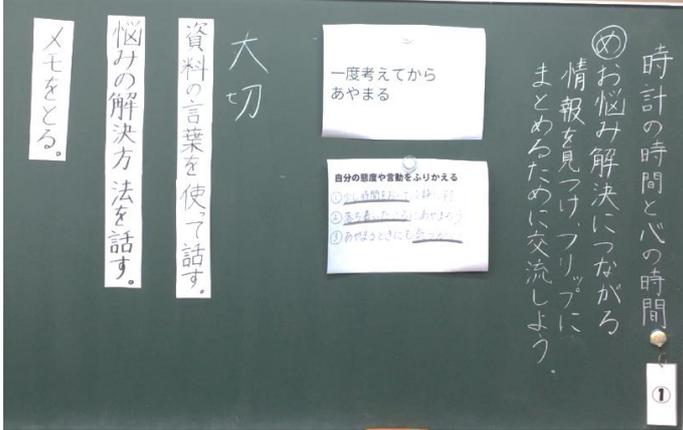


国語研究授業「時計の時間と心の時間」6年生

～筆者の主張や意図をとらえ、自分の悩みをお悩み解決フリップで解決しよう!!



6年生が挑戦してくださった「時計の時間と心の時間」。自分や相手の悩みを解決するために、複数の科学読み物を読もうとする子どもたちの姿が素晴らしかったです。どのような言語活動を設定するかで、子どもたちの学習にとりくむ態度が大きく変わるといふことを、見せていただいた授業だったと思います。

1枚目
要旨

2枚目
要旨を支える事例

本単元では、「読むこと」の指導事項にあたる以下の2点を中心に構成されました。

ア 要旨の把握 ウ 目的に応じて必要な情報を見付ける

この2つの指導事項は、フリップの1枚目(要旨)と2枚目(事例・情報)にそれぞれ対応していました。

また、フリップは限定された空間で、情報を整理することにより、要旨や事例を端的にまとめる力が求められる場面が自然に生まれました。

「自分の悩みを解決する」という目的をもたせることで、自分のための資料だけでなく、相手のための資料も積極的に関心をもつ姿が見られました。

このように、教科書教材を核に据えつつ、並行読書を組み合わせることで、「読むこと」が実生活や他者とのかかわりに広がっていくことができるように思います。

6年生が設定していた言語活動【お悩み解決フリップ】

先生方のふりかえりより

○子どもたちがペア交流しているときには、水戸部先生が言っていた場所で話をつないでいきたいと思いました。

→ペアやグループで話しているときには+1のメンバーとして関わり、会話の流れを作る。場面によって教師の関わり方も柔軟に変えてもらえたらと思います。

○並行読書をするにしても、きちんと文章の構造と内容の把握ができる力が必要だと感じた。

→子どもたちが普段どんな本を読み、どの程度内容を理解できているかを意識してみることも「読書の質」を高めるヒントになると思います。

今回の研究授業は「読む力の育成」と「言語活動の意味」をつなぐ好例となりました。今後も子どもたちにとって意味のある「読む活動」を仕組んでいく中で、子どもたちの言語能力を高められる授業について考えていきましょう。

